

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

がん患者の泌尿器症状の緩和に関するガイドライン 2016 年版

日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会（委員長：太田恵一朗 日本医科大学消化器外科）

金原出版、2016 年 6 月 20 日 第 1 版第 1 刷発行

Minds 掲載 有

■1 漢方薬、牛車腎気丸

疾患：

過活動膀胱

引用など

日本排尿機能学会 過活動膀胱診療ガイドライン作成委員会 編. 過活動膀胱診療ガイドライン 第 2 版. リッチヒルメディカル 2015

有効性に関する記載ないしその要約：

蓄尿症状（頻尿・尿失禁）の薬物療法のその他の項に、下記の記載がある。

『フラボキサートや抗うつ薬、漢方薬は過活動膀胱治療薬として効果がある程度認められている。』

備考：

蓄尿症状（頻尿・尿失禁）に考慮される治療薬の表中に、その他の薬剤として牛車腎気丸と用法・用量の記載がある。